

Q3 誹謗中傷の抑止に向けた取組を行っている中で、 感じていることはありますか？

社会全体で人権意識を高めていくことが重要だと思っています。

例を挙げると、先ほど、講演活動をしていると申し上げましたが、聞きに来られる方は年配の方、人権意識が高い方が多いため、若い世代や誹謗中傷を行う可能性がある人々にも届くような工夫が必要です。そこで、会社での人権教育や学校の授業として行えば、関心のない人々にも参加してもらえるので、効果的だと考えています。また、現場の先生たちの負担軽減にもつながると思います。

その他、人権に関するある講演を拝聴した際に、講師の方が、以前は問題視されていなかったが、今はあまりよく思われない言葉遣いをされており、がっかりしたことがあります。人権教育を行う側も時代に合わせたアップデートが必要だと思います。

これらのような、学校で実施する子ども向けの講演会や、人権教育に関わる方向けの研修の実施をはじめとした、インターネット上での誹謗中傷の防止に関する取組に、行政がもっと予算を割いてもらえたらと思っています。

Q4 誹謗中傷に限らず、インターネット上での発信が意図せず 広まったり、炎上したりした場合の心構えを教えてください。

様々な方法があるとは思いますが、例えば、一般の方のアカウントであれば、まずアカウントを削除して、使う言葉に気をつけながら新しいアカウントで始めたら良いと思います。なぜかという、炎上したときに謝罪をすると逆に攻撃が激化するというデータもあるからです。また、「お前の住所知っているぞ」といった脅迫などを受けた場合は、すぐに警察に相談した方が良いでしょう。

もし、自分が誹謗中傷をされてその相手を突き止めたい場合は、アカウントを削除せず、時系列で証拠を集めていく必要があります。総務省が相談に関するチャート表^{※3}

を公開しているので、参考とされてはいかがでしょうか。

また、著名な方のアカウントの場合は、本人だけでなく、その方が所属している会社や組織も、デマの場合は公式からの声明など、本人の不適切な言動に対して責任を持ち、誠実な謝罪と、発言した本人や所属する社員などに人権教育をしていく必要があると思います。どちらにせよ、自分の発信が簡単に全世界に届いてしまうという危険性をしっかり認識し、感情的にならずに、誤解を招くような内容になっていないか、冷静に考えて、発信することも必要です。

Q5 インターネット上も含めて、誹謗中傷をなくすために、 私たちができることを教えてください。

言葉を知ることです。私が学校などでお伝えしているのは、漫画でも絵本でも図鑑でも何でも良いから字を読むことです。字を読むのが苦手な人は色々な人とたくさん話をすることです。例えば自分がされて嫌なことを「やめてほしい」って伝えただけなのに、言葉がうまく出てこない、「死ぬ」とか「消えろ」とか「ウザイ」といった攻撃的な言葉になってしまいます。

でも、嫌なことを言われた時に、「傷つくから、そういう風に言わないで」と相手に伝えることができれば、それを伝えられた方も、傷つけてしまったということを理解できる

んですよ。もしかすると、謝ることができるかもしれないし、次からは気を付けようと思うかもしれない。言葉を知ることとは、「伝えること」と「受け取ること」「理解すること」ができるようになることではないかと思います。

SNSの中でも実生活の中でも、やさしく話しかけられたらやさしく返したくなるのが人間だと私は信じているので、やさしい言葉のストックや言い回しを心の引き出しにたくさん入れておいて、そのやさしさのスパイラルで、現実もSNSの社会も埋めていけたら、きっとその先には花が生きることができたやさしい世界があるんじゃないかなと思っています。

※3 インターネット上の書き込みなどに関する相談・通報窓口のご案内(総務省)
https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/trouble/reference/reference01.html

●インターネット上の人権侵害については、本誌P33もご参照ください。

